

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 24-51
補助事業名 平成24年度 中小機械工業の付加価値向上に資するデザイン人材育成支援補助事業
補助事業者名 財団法人 大阪デザインセンター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

フランスをはじめ世界の国々では「デザインは経済価値を生み出す重要な資源」と位置付け、国家戦略として取り組んでいるが、わが国の産業は、経済のグローバル化による激しい国際競争や、人口減少による国内市場縮小のもと、経済成長を維持することが困難になりつつある。

世界市場に受容される高付加価値商品・差別化商品の開発が、経営戦略上の重要な施策となる。

デザインを中小企業のモノづくりに活かすには、専門職のデザイナーを育ててスキルアップを図るだけでは不十分であり、日本においても「デザインを重要な経営資源」として位置付け、デザインマネジメントやデザインプロデュース能力を備えた人材を育成することが重要である。

製品の機能と採算性を満たしつつ、より使いやすく、心地よいもので、かつ企業イメージの向上にも資するという、全体的なバランスをとる立場の人間が企業に必要となってくる。

さらに、一般市民にも「デザインのカ」を認識していただき、デザインの価値、対価を認めていただかねばならない。

(2) 実施内容

① デザイン就職支援事業 (<http://www.osakadc.jp/outline/recruit.html>)



将来ものづくりを支える優秀なデザイナーを育成するため、デザイナーを志望する学生19名を対象に、デザイナーとしての知識や技術の習得と社会人としての職業観を醸成することを目的に、大阪デザイン振興プラザ入居事務所と当財団賛助会員の協力を得て、夏休みの期間中に11日間、実践的な就業体験実習を行った。

「デザインスキル」「企画構想力」「コミュニケーション能力」「提案力」「礼儀・マナー」など、普段学校では学べないことを体験し、将来デザイナーになる心構えを学んだ。



実習が終了した9月末には、実習生・受入デザイン事務所が一堂に会し、各人の経験を共有化する座談会を実施した。

②デザインビジネス塾 (<http://www.codesign-odc.com/y2012/index.html>)



中堅デザイナー等を対象に、デザインを通して問題の発見・課題の解決が図れる人材、新しいビジネスを創造できる人材を育成する。そのため、在阪のトップデザイナー4氏（間宮吉彦氏、羽場 一郎氏、山納 洋氏、吉田 順年氏）に塾長を委嘱し、総合的なデザイン研修事業を実施し、実践的で広範囲なデザイン実務やそれぞれの塾長の卓越したノウハウを塾生に直接伝授する、半年

間で計20回の講義、ワークショップである。



募集定数の20名が参加した。記念講演1回、塾長講義4回、ゲスト講義4回（「イノベーション」「マーケティング」「デザイン科学」「コミュニティ」）のほか、4塾長のもとでのワークショップ8～15回、成果発表会（各塾発表テーマ：「御堂筋活性化」「屋上緑化」「高取山リ・ブランディング」「新しいコミュニケーションデザインのかたち」）を実施した。

また、今回のプログラムでは成果発表会時以外にも塾生自身が発表する場を組み込み、塾生同士が積極的にコミュニケーションをとり、それを通じて課題共有を行い、自身の意識向上を図った。

③デザインマネジメント研究会

(<http://www.osakadc.jp/event/2012/0918165151.html>)

企業を取り巻く経営環境は地域や業種を問わず厳しい現状が続いている。その中で、更なる企業業績の伸張を図るためには、企業が社会にアウトプットするすべての「モノ・コト・サービス・情報」について優れたデザインを継続的に創出することにより、企業価値を高める総合的な創造行為、すなわちデザインマネジ

メントが重要である。



紙製品加工会社の代表取締役や金属メーカーの営業企画リーダーなど、企業上層部5名の受講となった。

塾頭講義に加え、優れた学識を持つゲスト講師によ



る特別講義を2回、受講生同士によるグループディスカッション、昨年度の受講生による成果報告会を中心とするパネルディスカッションを実施し、講義数が8回と短期間ながらも、経営にデザイン感覚を導入する様々なプログラムを展開し、充実したカリキュラムとなっ

た。

④シンポジウムの開催 (<http://www.osakadc.jp/event/2012/0822154141.html>)
(<http://www.osakadc.jp/event/2012/1217095252.html>)

企業の経営上層部が「デザインは重要な経営資源である」と納得していただき、



一般の市民の方には「デザインは見た目だけではない」と気づいていただくことを目的とする。

「デザインの力」(平成24年9月18日開催)は140名、「アメリカのデザインの今」は212名の参加を得て、盛況であった。

両シンポジウムとも基調講演、パネルディスカッションの2部構成で実施した。

会場を大阪市立中央図書館で行い、デザイン関係者以外の一般市民、ビジネスマン、学生の参加も多く見られ、デザイン意識の啓発、振興に努めた。



講演では行政(経済産業省)や大手企業デザイン責任者、女性デザイナー、米国アートセンター教授など様々な分野でデザインに関わっている講師陣を招くことで、講義内容に偏りがなく多種多様な着眼

点で参加者に気づきを促した。

2 予想される事業実施効果

①デザイン就職支援事業

就職状況が厳しい中で、かなり良い確率でデザインの道に進めている。「インターンシップで学んだ社会の厳しさ」を十分わかっている事は強みであり、インターンシップでの効果が見られる。

実習生には、実際の現場に身を置くことによって、将来像を固めたり、デザインスキルや社会人としてのマナーを実地で学ぶ非常に良い機会である。

他方、受入れ事務所側においても、実習生を受け入れたことによって、「初心にかえる事ができ、新たな発見もあった」という声もある。

今年度の実習生達も、今回学校の授業とは全く違う実践的な物づくりの現場に触れたことにより今後の学校での勉強もそういった視点から捉える事ができるようになり、より一層、物づくりデザイナーとしての道を追求して行く事が期待できる。

結果、実習生が職業意識の高いデザイナーとして世に出ることとなれば、デザイン業界に適正な若い人材が切れ目なく供給され、日本のものづくりを支えていくこととなる。

②デザインビジネス塾

デザイナーは知見と経験、年齢とともに、その技量が高まっていくので、発達段階に合わせて、教育の機会を提供しなければならない。この事業は、各企業でモノづくりの現場を担う若手デザイナーの育成を目指しているが、その先には企業のデザイン管理職、企業全体経営者にもデザインの本質を理解し、企業経営に活かして、ブランドイメージを確立してもらわなければならない。

塾生自身をはじめ、塾生を派遣した企業でも塾生の変化を評価している。何のためのデザインかを考えるようになった、目的意義を明確にしてデザイン業務に取り組むようになった、常に客観的な視点を持ち独りよがりなデザインにならないように気を付けている、など受講前とはデザインに対する意識に変化があったと見られる。

当塾で得た気づきや着眼点をデザインに反映させ、大阪のデザイン産業向上への柱となることが期待される。

前年度に増して塾長や塾生同士の人的交流の豊富化や、デザインビジネス塾全体を通して、人脈の豊富化を図ることができた。

③デザインマネジメント研究会

デザインを中小企業のモノづくりに活かすには、専門職のデザイナーのスキルアップだけでは不十分である。製品の機能と採算性を満たしつつ、より使いやすく、心地よいもので、かつ企業イメージの向上にも資するという、全体的なバランスをとる立場の人間が企業に必要となってくる。

本研究会を受講した暁には、受講生自身のデザイン力がアップし、デザイン部門の監理者は部下のデザイン性をさらに発揮させ、経営幹部はブランドイメージの確立・企業イメージ戦略の構築に際して、デザインのまとめあげ方の手法に大きな参考となる。

④シンポジウムの開催

両シンポジウムとも終了後にアンケートを実施したところ、デザインとマーケ

ティングの在り方を改めて考え直す切っ掛けになった、現在のデザイン傾向や意識についてより専門的に話を聴くことができ勉強になった、などデザインに対する関心が高まったと見受けられる。またデザインに対する一般に認識を得て、デザイナーにとっても非常に参考になる意見を聞くことで、ものづくり企業のデザイン戦略や経営改善に資すると思われる。

3 本事業により作成した印刷物等

①「デザイン就職支援事業」報告書

(http://www.osakadc.jp/outline/pdf/recruit/h24recruit_houkoku.pdf)

②「デザインビジネス塾[co-design]」報告書

(http://www.osakadc.jp/event/pdf/20130402_co-design.pdf)

③「デザインマネジメント研究会[坂下塾]」報告書

(http://www.osakadc.jp/event/pdf/20130402_sakashitajuku.pdf)

④「シンポジウム「デザインの力」「アメリカのデザインの今」」報告書

(http://www.osakadc.jp/event/pdf/20130402_symposium.pdf)

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 財団法人 大阪デザインセンター（ザイダンハウジン オオサカデザインセンター）

住所： 559-0034

大阪市住之江区南港北二丁目1番地10号 ATCビルITM棟10階A-1

代表者： 理事長 越田 英喜（リジチョウ コシダ ヒデキ）

担当部署： 総務部（ソウムブ）

担当者名： 専務理事 吉原 康文（センムリジ ヨシハラ ヤスフミ）

電話番号： 06-6615-5571

FAX番号： 06-6615-5573

E-mail： yoshihara@osakadc.jp

URL： <http://www.osakadc.jp/>